

教宣 せぶん

制度検討特別委員会って

何だったの？

1 カ月ほど前、沖縄県の米軍普天間飛行場の移設問題が大きく報道されました。米軍普天間飛行場の新たな移設先として、日米が合意した名護市キャンプ・シュワブ沿岸案は、県や名護市、地元集落がこぞって反対を表明しているという記事です。地元住民を中心に大きな反対運動が起こっている様子がテレビでも映し出されました。

このニュースを見て、組合運動の「認識」を新たにすることになりました。それは、反対している住民が、ただただ「この地域に飛行場を持ってきては困る」と反対しているだけで、決して「対案」を示していないということです。仮に、普天間飛行場移設をすすめる政府が、「あなたたちが反対している理由はわかった。しかし日本を取り巻く情勢が『こうこうこう』で、日本とアメリカの関係が『こうこうこう』の時に、あなたたちがここでは困ると言うなら、いったいどこへ飛行場を持って行けばいいのか？対案を出せ」と問うたとします。反対している住民側がそれに答え、「あそこならいいんじゃないか？」「向こうならいいんじゃないか」と言ったとしたらどうなるでしょう？「あそこ」「向こう」と名指しされた地域の住民が、その発言に反発するでしょう。「何てことを言うんだ」と怒るでしょう。全県的に反対運動が広まるどころか、「そんなことを言うんだったらあそこで良い」となってしまう。そして何より「飛行場」が必要であることを認めたことになってしまいます。「情勢」を理解し、「対案」を出した時点で、すでに相手の土俵に乗ってしまうことになり、話しは常に政府ペースですすんでいくことになるでしょう。だからこの住民たちによる反対運動は決して「対案」を出しません。

分裂前の「制度改定問題」をはじめとした組織論議のなかでも「組合は反対、反対と言うけど、じゃあどうしたら良いと言うのか？組合もどうすべきかを示すべきだ」という人がいました。一見正論に聞こえましたが、「対案」を示した結果、どうなったでしょう？「改定」は全契約係社員に及び、労働条件は会社の思惑通りに切り下げられました。そして、そうした考え方の延長線上に「制度廃止」が待ち構えていたと感じます。私たちの社員制度を、次世代に「安

全」につないでいくことを第一に考えた結果、その発想自体を会社に利用され、こんなに早くお払い箱になったと思います。すべてが取り巻く会社側の「情勢」を私たちがおもんばかりで、組合が「対案」を出したことから始まったと思いませんか？ 労働組合である私たちが、社員としての「理想像」や「ビジョン」を追いかけたことがきっかけだったとは思いませんか？

旧大東京火災社の直販社員制度は、第1・第2・第3といくつかに分かれています。研修嘱託社員制度も入った時の制度が適用されていると聞きました。制度変更があったとしても、変更が適用になるのは施行以後に入社した者が対象で、施行以前に入社している者は、新制度に塗り変わらないそうです。ですから勤続20年の研修嘱託も存在するそうです。私たちが「制度改定」時、名護市キャンプ・シュワブ沿岸住民と同じように、会社の「情勢」を理解せず、「対案」を出さずに、ただただ「それでは困る」と訴えていたら、旧大東京火災社の社員制度のように、変更前の社員制度のままでも仕事できていたはず。それでは「展望」が見出せなかったはずだという人がいるかもしれませんが、いま私たちの社員制度に「展望」があるのでしょうか？いま私たちと旧大東京火災社の直販社員とでは、どちらが「展望」があると言えるのでしょうか？「制度問題」では、すすむ道はひとつしかないと思わされていましたが、いま「裁判」という法的なたたかきをしてみて、実は旧大東京火災社方式など、多くの選択肢、解決策があったことがわかりました。相手の情勢を理解することで、また相手の土俵に上がることで、「魅力的」な選択肢や解決策は消えていったのです。

もちろん、過ぎたことをあれこれ言うつもりはありませんが、一見正論に思えた考え方が発端となり、拳句の果ては自分たちの居場所を失い、たたかう牙をも奪い取られたという現実を、私たちは「過去」から学ばなければならないと思います。

いまさら「理想像」や「ビジョン」を追いかけたことが「正しい」とか「間違い」とかの議論をしようとは思いませんが、追いかけた結果、「安全」がまったく確保されなかったことは紛れもない事実です。労働組合が「社員としての理想像やビジョン」という世界に足を踏み込めば、大きな「未来」を失ってしまうこともわかったはず。そして、相手の「情勢」を理解せず、「対案」を出さず、「それでは困る。生活が成り立たない」「法に照らし合わせてそれはおかしい」とベーシックに主張し続けることが結果的にどうなるか、私たちのたたかきを通してわかることになるでしょう。「旧大東京火災社方式」の魅力的な着地点を目指します。いまだ「ビジョン派」の呪縛が解けない方もいると思いますが、目覚めるにはギリギリですがまだ遅くありません。